

”統率力”

主将たちの夏

各部を支える主将たち。リーダースキャンプや、試合・練習等を経て、多くのことを学んだだろう。今回は、「主将の統率力」に焦点を絞り、4部の主将に話を聞いた。

サッカー部 中垣雅博

関東1部昇格を目指すサッカー部のキャプテンを務める中垣雅博(商4・伊志田高)。彼の語る一言一言からは、前期リーグを1勝も出来ずに終わった今のチームを立て直そうという姿勢が強く感じられた。

昨年、関東リーグ復帰を果たしたサッカー部。今年は開幕から苦戦が続いたが、自身は骨折のため、リーグ戦に出場出来なかった。しかし、外から見て気付いた点を伝えるなど、プレー以外の面でリーダーシップを発揮。不本意な成績に終わったが「自分たちの現在の力を知ることが出来、慢心がなくなった。これを機に、練習に取り組む姿勢から変えていきたい」と語り、後期リーグに向けて「勝利に対する強い意志が大切」と、チームメイトを鼓舞している。

「先頭に立って、チームをまとめることが楽しい」と話す中垣。彼のようにプレーだけでなく、精神的にもチームを引っ張っていけるキャプテンがいる限り、「さらに上のリーグを目指す」という目標を叶えることも可能なのではないだろうか。

(澤田 和輝・法1)



▲北グラウンドでランニングする
中垣主将

フェンシング部 平田 京美

昭和12年の創部以来、輝かしい伝統と実績を誇るフェンシング部。女子部主将である平田京美(経済4・羽島北高)は、とても明るく、気さくな人柄で、練習中も仲間との連帯感を大切に、良い雰囲気を作り出している。

「主将という役割を担っている以上、みんながついてくるように、まず自ら進んで練習するよう心がけています」と話す彼女からは、チームをまとめていく責任を、誰よりも強く持っていることがうかがえる。フェンシングの魅力を訊ねると「あまりメジャーではないけれど、練習するほどに上達していくのが分かり、飽きることがない」と目を輝かせる。「全員が目標を高く持ち、常に優勝を意識している」とチームの現状を話し、「今年の目標は関東学生リーグ戦と全日本学生選手権の団体優勝。全日本選手権出場も狙います」と力強く話す。多くの国際大会に出場し、個人としても活躍を見せる彼女と、彼女率いるフェンシング部から今後も目が離せない。

(柴田 麻実・文1 / 中川 泉穂・文1)



馬術部 東 明憲

自らを「明るく、お茶目な性格」と語る、馬術部主将の東明憲(経済4・福岡農高)。「競走馬に乗りたい」という思いから馬術を始め、今ではすっかりその魅力にとりつかれている。

「他の競技とは違って、馬術で一番大切なのは『馬との信頼関係』です。そこが難しさであり、魅力でもあります」と話す。騎乗する馬とのコミュニケーションを図るため、毎日愛馬の世話をしながら、寮生活を送る。試合本番までに、いかに馬のコンディションをベストまで持っていくか? というのも、勝敗を分ける重要な要素なのだ。

日頃から部員を統率するのも主将として大切な責務。時折見せる厳しさが、チームのムードを引き締める。

「ライバルはずばり明大です」と言い、「今後の目標は全日本学生馬術大会での総合優勝です」と力強く宣言。本番でいかに実力を発揮出来るか? チーム一丸となって、ぜひ総合優勝を達成してほしい。(木村 太一・法1)



▲「菱専号」と東主将

ラグビー部 阿比留 健二郎

ラグビー部キャプテン・阿比留健二郎(商4・長崎南山高)の頭の中には、すでに『関東リーグ1部復帰』という“結果、”が描かれている。口先だけにならないように自ら率先して行動し、先頭に立って個性的なメンバーをまとめる。今年の課題は、昨年劣っていたディフェンスの強化。部員たちも走り込みやウエイトトレーニングなど、意欲的に練習に取り組んでいる。「目標に向かってチームが一丸となり、同じ思いを共有しあえるのがラグビーの魅力」と話し、理想とする“みんなで苦楽を共にするラグビー、”を目標に、チームを引っ張っている。彼の鍛え上げられた肉体が日々の厳しい練習を物語る。

「型にはまらず、自分たちが考える理想の試合が出来るようなチームにしていきたい」と語る彼からは、力強い気迫がみなぎっていた。

チームも順調な仕上がりに見せており、9月から始まるリーグ戦での目覚ましい活躍が期待される。

(橋本 麻未・経済1 / 宮山 友希・文1)



▲伊勢原グラウンドで汗を流す
阿比留主将=右

【ニュース専修2004年8月号11面】

HOOP IMPACT 2004

オール専大が優勝 バasketボール 華麗なプレーで観客魅了



▲12チームの頂点にたった専大チーム

スポーツインデックス主催・本学Basketボール部後援の「HOOP IMPACT2004」が、7月11日、12チームが参加して生田総合体育館で行われ、OB現役の混成チーム・オール専大が優勝を果たした。

リズムがかみ合わず、予選リーグ1回戦を落としたオール専大は、2回戦以降調子を取り戻し、OB・青木康平さん(平15商)が所属するFEBと決勝トーナメント1回戦で激突。序盤リードされるも逆転勝利を収め、この日、

一番の盛り上がりを見せた。2位は大塚商会アルファーズ(JBL)。

『ボーダーレス』をテーマとしたこの大会には、車椅子Basketボールチーム「千葉ホークス」から安直樹(アテネパラリンピック日本代表)、田中恒一両選手が、JDBA(日本デフBasketボール協会)からもデモンストレーション参加があり、スピードと技で500人の観客を魅了した。

【ニュース専修2004年8月号11面】

11年ぶり1部へ

アイスホッケー部

アイスホッケー部が11年ぶりに関東大学リーグ1部に復帰した。

リーグ再編により、今シーズンから1部の所属チーム数を8校から10校に増やすことが決定。昨シーズン2部1位の専大と、2位の日体大が対象になったもの。

【ニュース専修2004年8月号12面】

1部復帰を逃す

ボクシング・関東学生リーグ入替戦

関東学生ボクシングリーグの1、2部入れ替え戦が7月25日、神奈川県立体育センターで行われた。4勝1敗で2部優勝を果たした専大は、中大と対戦。4-5で破れ、惜しくも1部復帰を逃した。

谷田部輝雄監督は「入れ替え戦は残念な結果に終わったが、総合力で劣る中、気合で2部優勝を勝ち取ったことには満足している」と語り、岡田哲也主務(商4・三好高)は「どちらが勝ってもおかしくない内容だったが、その差が1部との差だと感じた」と話した。(大野 愛子・経済3)

【ニュース専修2004年8月号11面】

キャンパスから「遊園」駅まで清掃

体育会本部主催 小さな親切運動



体育会本部主催の「小さな親切運動」が7月17日、生田キャンパス周辺で行われた。体育会各部、同好会から有志が参加し、キャンパスから向ヶ丘遊園駅までの道を約1時間半かけて清掃した＝写真。

地元の稲目町会(会長・森治氏)から飲み物の差し入れをいただき、炎天下、学生たちは汗をぬぐいながら、ペットボトルやタバコの吸い殻などを拾い集めた。

通学路は、地域の方の道でもある。モラルある行動を心がけよう。

(関 淳弥・文3)

【ニュース専修2004年8月号11面】